

(課程博士・様式7) (Doctoral degree with coursework, Form 7)

学位論文要旨

Summary of Doctoral Thesis

専攻： 共同教科開発学

氏名： 山田 丈美

Course :

Name :

論文題目： 言語を基盤とした教科等横断的指導による思考力と表現力の相互育成に関する研究

Title of dissertation :

論文要旨：

Summary :

第1章 序論

現代社会を生きていくうえでは、必要な情報を選択・収集し処理して取り込み、取り込んだ情報をさまざまな課題解決のための思考に役立て、その結果を他者や社会へと表出・表現していく思考力と表現力が求められる。本研究では、「思考力と表現力の相互作用的育成には、言語を基盤とした教科等横断的指導が有効である」との仮説を設定し、論理的思考スキル・想像的思考スキル・構造的思考スキルの3つの思考スキルに基づく具体的な授業モデルを作成し、実践を行い、その効果検証を行うこととした。第1章ではまず、教科等横断的指導の一形態として、従来の学習指導要領で推進されてきた合科的指導についての変遷を追うことにした。合科的指導の実践を量的・質的に分析した結果、1985年をピークとした合科的指導は、教科の目標や内容と遊離した活動・体験中心の課題の多いものであったことが分かった。

第2章 小学校教員を対象とする合科的指導の実態調査

2013～2014年に小学校教員を対象とする合科的指導の実態調査を実施した。その結果、教科の系統性から離れて合科的指導を行うことによる学力低下の懸念が合科的指導を取り入れない主要因となっていることが示唆された。さらに、合科的指導の基本理念や方向に関し賛同したとしても、具体的な方策が示されないため実践には結びつきにくく、学習指導要領において推進が謳われながらも普及していかなかった実態が見えてきた。教科の組み合わせと育つ力についての質問項目では、国語科と算数科における表現力・思考力、国語科と図画工作科における表現力・思考力・感性、国語科と音楽科における表現力・感性・想像力については有意差が見られ、この結果を基に、第3章～第5章の教科等横断的指導の授業を構想した。

第3章 言葉と数理の論理的思考スキルによる教科等横断的指導

第3章では、論理的思考スキルによる国語科と算数科の教科等横断的指導の実践例を示した。具体的には、言葉や数、式、図、表、グラフ等を用いながら、論理的思考様式を育成するための国語科と算数科による教科等横断的指導の実践を行うこととした。「三年とうげ」の実践では、文章を読み数理的なイメージを成しながら思考し、立式による表現と言語により表現する事前・事後テストで、4問中3問について事後テストの点数が高かった。「かけ算」を題材とした教科等横断的指導の実践でも、統制群よりも実験群の方が授業後の思考力・表現力の統合において量的及び質的伸長が見られた。

第4章 言葉と音の想像的思考スキルによる教科等横断的指導

第4章では、想像的思考スキルによる国語科と音楽科の教科等横断的指導の実践例を示した。小学校3年生を対象として思考力・表現力を育成するために国語科に音楽を取り入れた授業と音楽科に国語科を取り入れた授業を行った。前者として国語科教材「きつつきの商売」において動物にかかわる楽曲を組み込む授業、後者として音楽科教材「せんりつづくり」の素材として俳句を取り入れる授業を構想した。いずれも「リズム」、「強弱」、「速さ（速度）」「表現」に着目させた。その結果、「速さ」と「リズム」に関する思考力・表現力に一定の影響を及ぼす結果が得られた。

第5章 言葉と絵・動作の構造的思考スキルによる教科等横断的指導

第5章では、構造的思考スキルによる国語科と図画工作科の教科等横断的指導の実践例を示した。「ごんぎつね」の挿絵比較による教科等横断的指導の実践では、児童が通常使用していない4名の画家の挿絵を提示することで、登場人物についての異なる絵画的イメージを比較することになり、人間理解に関する思考力が活性化され、表現の向上に繋がった。「ごんぎつね」の動作化による教科等横断的指導の実践では、言語と絵画を学習教材として、二次元の静止画から、時間軸を含む四次元の動的な動作へと自発的に学習活動を発展させることができた。また、「モチモチの木」の言語表現と絵画表現を構造的に組み入れた単元を通しての教科等横断的指導では、実験群において表現の量的・質的な向上効果が見られた。

第6章 教科等横断的指導の研究の成果と展望

本研究では、国語科と算数科、国語科と音楽科、国語科と図画工作科との教科等横断的指導により、思考力と表現力の相互育成に効果があることが示唆された。第6章では、これを一般化したモデル図を提示した。思考スキルが教科横断的指導に有効に働いて展開されていく中で、思考力と表現力が育成される。その前提となる言語化においては、特に語彙が重要であると推察され、今後の研究の課題としていきたい。また、教科等横断的指導のカリキュラム・マネジメントにも取り組みたい。